

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 光明中学校

【調査日】 令和5年4月18日（火）

【調査対象】 中学校第3学年

【調査内容】

【1】 教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

【2】 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ① 生徒に対する調査
(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)
- ② 学校に対する調査
(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

【問題別調査結果】〈各教科に関する調査の結果 概要〉

(概要) 今年度実施された各教科において、本校生徒の平均得点は、奈良県の平均得点とほぼ同様の結果であった。

【生徒質問紙調査結果】

- 基本的な生活習慣（朝食、就寝時刻、起床時刻）の質問に対して、9割の生徒が生活のリズムが確立できている。
- 「自分にはよいところがあると思うか」の質問に対して、肯定的な回答の割合は、83%（県77%）で、自己肯定感のある生徒の割合は比較的多い。
- 「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒は58%で、県平均62%と同様である。学校として、キャリア教育の取組は進めているが、今後も充実を図っていく必要がある。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒は96%である。これについては、限りなく100%を目指していかなくてはならない。あらゆる教育活動において、いじめを許さない、誰もが楽しいと思える学校づくりを行っていく必要がある。
- 「人の役に立つ人間になりたい」と考える生徒が93%いる。家庭教育と共に、道徳教育の推進の成果と考えられる。

○「学習塾や家庭教師の先生に教わっているか」という質問に対して、75%の生徒が教わっていると答えている。家で自分で計画を立てて学習するよりも、塾などで勉強している生徒が比較的多い。

○「学校の部活動に参加しているか」という質問に対して、運動部と文化部を合わせて8割の生徒が参加し、熱心に活動している。

○「1, 2年生の時に受けた授業で、PC・タブレット等のICT機器をどの程度使用したか」という質問に対して、週1回以上が80%となっており、県平均とほぼ同様となっている。ただ、週3回以上の回答になると、本校が25%になるのに対して、県平均は55%になる。さらに、使用の頻度を増やすことが課題である。

○「学習の中でPC・タブレット等のICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と答えた生徒が87%であった。県平均では92%あり、生徒が前向きに活用しているといえる。各教科の授業での使用方法に工夫が必要である。

○「1, 2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」生徒は、本校で53%であり、県平均とほぼ同様であった。

また、「1, 2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた」生徒は、本校で62%であり、県平均の72%を下回っている。

○「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つか」という質問に対して、国語は90%（県平均85%）、数学が66%（県平均72%）、英語は81%（県平均87%）の肯定的な回答が得られた。

また、「各教科の学習が大切だと思うか」という質問に対して、国語は94%（県平均90%）、数学が74%（県平均83%）、英語は84%（県平均87%）の肯定的な回答が得られた。教科による差もあるが、日々の生活や将来と関連付けた授業の創造が求められる。

【調査結果全般について】

およそ3年間も続いたコロナ禍において、学校生活でも様々な行事や取組が制約を受け、制限されてきた。小学校から中学校にかけて、生徒同士が協力して行う活動や、自分の意見や思いを活発に伝え合う授業などができない状況であった。

今年度から、少しずつ制約や制限が解除される中、「人が困っている時は、すすんで助けているか」という質問に対して、85%の肯定的な回答があった。昨年度と同様の割合である。「学校に行くのは楽しいか」という質問には、76%の肯定的な回答がある。「今住んでいる地域の行事に参加しているか」という質問には30%の肯定的な回答しかなく、昨年度の42%を下回っている。

徐々に学校生活や日常生活が元に戻りつつある中で、改めて子どもたちの将来に向けて、人と人とのつながりを大切にする教育を行っていく必要がある。

今回の結果を踏まえ、地域の方々と連携をとりながら、授業や学校行事等の在り方など、様々な面について改善を行うとともに、課題に合わせた取組を行う必要がある。